

旧約聖書外典偽典概説

土岐健治 著

オンデマンド版

旧約聖書外典偽典概説

土岐健治



聖書研究に不可欠な資料を分かりやすく解説!

旧約聖書の歴史書と新約聖書の間を結ぶ「旧約聖書外典」。新約聖書と初期キリスト教の理解に不可欠な「旧約聖書偽典」。正典には含まれなかったがユダヤ教・キリスト教の伝統において重要視されてきたこれらの文書群について、書かれた時期の社会状況と、各文書の特徴（内容、著作年代、思想など）を平易に解説する。待望のオンデマンド復刊！

《著者紹介》土岐健治（とき・けんじ）… 1945年生まれ。東京神学大学卒業。東京大学大学院西洋古典学専門課程博士課程修了。現在、一橋大学名誉教授。『楽しいラテン語』（共著）、『はじめての死海写本』、クロッサンほか編『イエス研究史料集成』（共訳）など、著訳書多数。

A5判・並製・252頁・定価 4,620円（本体 4,200円+税）・ISBN 978-4-7642-0366-2 C3016

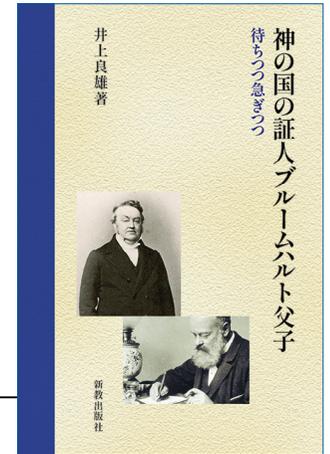
新教出版社 オンデマンド復刊 [買切] 2025年6月23日発売

神の国の証人ブルームハルト父子

待ちつつ急ぎつつ

井上良雄 [著]

四六判・並製・470頁・本体5500円（税込定価6050円）
ISBN 978-4-400-21332-1 C1016



バルト神学の原点

強烈な終末論的信仰や社会主義運動への参画によって瞠目され、カール・バルトに決定的な影響を及ぼしたドイツの牧師ブルームハルト父子。その二代にわたる教会と社会運動への挺身を描き切った、渾身の神学的評伝。

【著者】井上良雄（いのうえ・よしお）

1907年—2003年。東京府立第一中学校、第一高等学校を経て京都帝国大学独文科卒。同人誌『磁場』『麵麩』などで文芸評論を書き、「宿命と文学に就いて」「芥川龍之介と志賀直哉」などで新進批評家として注目された。法政大学講師となるが、34年、治安維持法違反で検挙され失職。その後、日大で講師を務めながら精神的彷徨の時期を過ごす。このころカール・バルトを読み、また教会に通い始めた。45年3月、日本基督教団信濃町教会で福田正俊牧師から洗礼を受ける。戦後は「キリスト者平和の会」の創立に尽力。日本基督教団社会委員長を歴任。また東京神学大学教授としてドイツ語を教えると共に、バルト『教会教義学』第四部「和解論」の全訳を完成。他にバルト『教義学要綱』など多数の翻訳がある。著書に『主よ、われら誰に行かん』、『汝ら時を知るゆえに』、『山上の説教』、『戦後教会史と共に』、『ヨハネ福音書を読む』など。

【目次より】	
序に代えて——カール・バルトにとりてブルームハルト父子とは誰であったか	第九章 父と子
第一部 父ブルームハルト	第十章 父の継承者——「イエスは勝利者だ」
第一章 敬虔主義的気圏の中で	第十一章 キリスト教的肉との戦い——「死ね、さらばイエスは生き給う」
第二章 「戦い」	第十二章 世に対する神の愛——「君たち人間は神のもの」(1)
第三章 信仰覚醒とからだのいやし	第十三章 政治の世界の中で——「君たち人間は神のもの」(2)
第四章 聖霊の新しい注ぎを求めて	第十四章 「御国は来る」
第五章 バート・ポルで	第十五章 晩年と死
第六章 希望の神学	終章 宗教社会主義と弁証法神学——「ひとつなるブルームハルト運動」？
第七章 神の国の進展と人間の参与	
第八章 死、そして——	
第二部 子ブルームハルト	

新教出版社 新刊案内 2025年6月24日発売

イエスへの祈り

主教カリストス・ウェア [著] / 柳田洋夫 [訳]

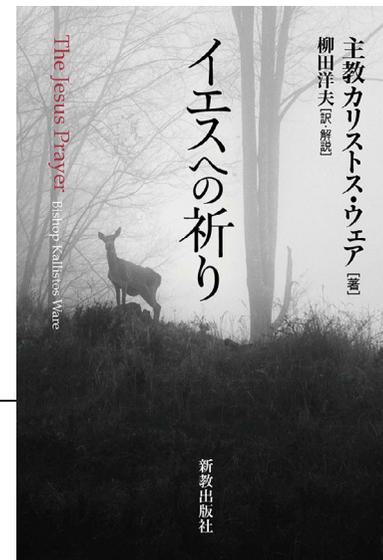
主イエス・キリスト、神の子よ、
私を憐れんでください

この究極的に短い祈りは、東方教会で長く用いられてきた射^{しやうとう}禱^{とう}である。本書は、この祈りの歴史、その豊かな神学的意味、そして祈りの実践方法を懇切に解説する。

真実の祈りが現代人から失われつつある今、この短い祈りが私たちに教えるものは大きい。

【著者】 Bishop Kalistos Ware は正教会の神学者。1934年イギリスで国教会の家庭に生まれたが17歳で正教会の礼拝に感動し、58年に改宗。オクスフォードで古典と神学を学ぶ。66年司祭に叙階。母校で教鞭をとる一方、ディオクレアの府主教になるなど教会の要職を歴任。他に邦訳『正教の道』（松島雄一訳、新教出版社）がある。2022年没。

【訳者】 やなぎだ・ひろお氏は1967年生まれ。東京大学文学部、同大学院人文科学研究科（倫理学）で学ぶ。東京神学大学大学院修士課程修了。聖学院大学アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士後期課程修了。博士（学術）。現在聖学院大学人文学部教授。訳書 マクグラス『歴史のイエスと信仰のキリスト』、ラインホルド・ニーバー『人間の運命』『人間の本性』、ガントン『キリスト教信仰』ほか。



小B 6判・上製・130頁・本体 1600円（税込定価 1760円）
ISBN 978-4-400-51773-3 C1016

- 【目次より】
- 1 「イエスへの祈り」とは何か
 - 2 四つの「成分」
 - 3 どこにいてもキリストを見出す
—— イエスへの祈りの実践法
 - 4 静寂を創り出す
 - 5 小さなせせらぎ
 - 6 私たちを助ける三つのこと
 - 7 霊の祈り
 - 8 三位一体とイエスへの祈り
 - 9 サクラメントとイエスへの祈り
 - 10 とりなしとイエスへの祈り
 - 11 静寂によって行動する
 - 12 家に帰る

別冊 Ministry

マッチョな権力者の話は
聞き飽きた

別冊Ministry編集部◎編

見えにくくされてきたもう半分のセカイ

2022年の休刊まで、ついに男性以外の編集委員を迎えられなかった本誌。その反省を踏まえ、権威ある中高年男性で占められてきたキリスト教の言論界・学術界において、「もう半分」の人々のみで企画、執筆する試みに挑んだ。「#MeeToo」、ジェンダー、フェミニズム、恋愛、推し活など…多彩なテーマに焦点を当てる。

特集

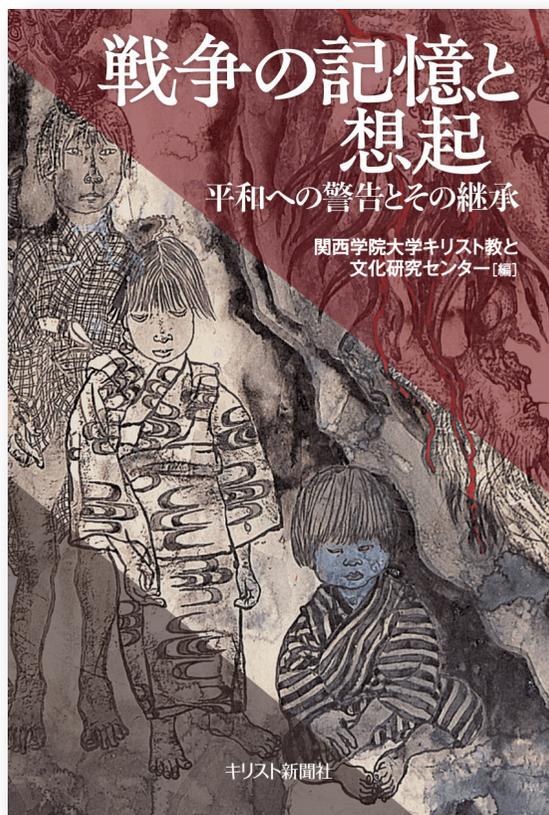
- 「ハタから見たキリスト教」対談 『ヘルジャパン』を生き抜く知恵
アルテイシア (作家) × 渡邊さゆり
- 鼎談 教会で生まれた私たちの飾らないリアル
- 対談「社会学者がキリスト教と恋愛について相談してみた」
高橋幸 (社会学者) × 大倉有紀 (聖公会聖職候補生)
- 対談「推し」と「神」をめぐる信仰の諸相
柳澤田実 (関西学院大学准教授) × 上岡磨奈 (慶應義塾大学講師)



戦争の記憶と想起

平和への警告とその継承

関西学院大学キリスト教と
文化研究センター◎編



「過去に目を閉ざす者は結局のところ現在にも目を閉ざす者となる」

リヒャルト・フォン・ヴァイツゼッカー

第二次世界大戦から80年。戦争体験者の時代が終わろうとする今、薄れていく記憶をどのように保存し、想起していくのか。凄惨な記憶から生まれた声を未来へとつなげていくために何ができるのか。国内外の多様な想起の現場からその知恵を探る8つの論考。

目次

小田部進「ハンブルクの「警告碑聖ニコライ」の成立(1977年)——想起文化の様式と世代間の問い——」

梶原直美「平和への叫び——佐喜真美術館が語る沖縄戦から——」

ルスターホルツ、アンドレアス「記憶とその先へ——時を超えた和解の可能性——」

水野隆一「賛美歌集における戦争の記憶と想起——『讃美歌』(1954年版)と『讃美歌 21』——」

橋本祐樹「想起の文化」とシュトゥットガルト罪責宣言

——ドイツ国外の諸教会によるエキュメニカルな応答に向けて——

西室雅央「関西学院高等部における「探究型授業×平和学習」の取り組み

——関西学院西宮上ヶ原キャンパスの戦跡を巡るARウォーキングマップ「KG Peace Map」の制作——」

前田美和子「広島女学院における平和学習の取り組み」

鐵口宗久『被爆校』鎮西学院における戦争の記憶と想起について——キリスト教学校における平和教育とは——」

さいしよのイースターのおはなし

絵：リン・ホラビン 文：日本聖書協会

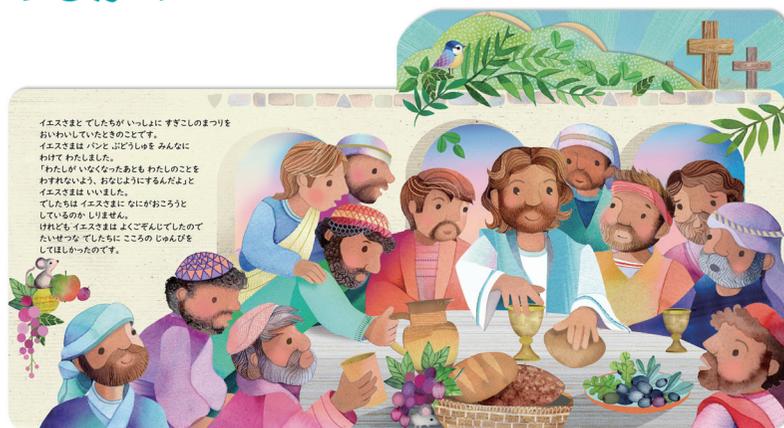
対象年齢
3歳以上

イエス・キリストの最後の晚餐から十字架の磔、復活までのストーリー。暖かい雰囲気絵とともに、イースターの出来事を味わうきっかけとなる一冊です。

十字架は蓄光インクで印刷しています。
強めの光をしばらく当ててから
暗闇に本を置くと、十字架が光ります。



じゅうじかのあとにおこったできごとをみにいきましょう!



発売日：2025年6月(予定)

判型：天地180×左右168mm

頁数：8頁

ISBN：978-4-8202-9292-0

定価

990円

(本体900円+税10%)

聖書協会共同訳

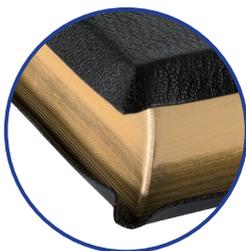
中型折革装聖書

2025年6月上旬
発売予定

長きにわたる空白を経て、折革装聖書ついに復活！

受洗記念、按手記念などの贈呈品
長くお読みいただく個人用として

限定500冊



長く親しまれてきた折革装聖書は、2019年を最後として、日本国内での製作が途絶えていました。手製本ができる職人が高齢化し、後継者がいないために技術継承が断たれたことが原因でした。

この折革装聖書は表紙をオランダで加工・製作しました。そして国内で聖書本体と合体させることで折革装聖書が復活したのです。オランダでの折革装表紙製作、日本での製本はすべて手作業で一冊ずつおこなわれています。

大切な方への贈り物や、さまざまな記念の
おりにぜひ用いていただきたい逸品です。



一冊一冊、手作業で製作している様子

仕様：
黒革(山羊)表紙、贈呈頁付き
文字の大きさ8.5ポイント相当

SI59S

折革装・三方金・差込ケース入

中型 (B6判)
天地182×左右128mm
厚さ55mm 2,036頁
ISBN 978-4-8202-1364-2

価格

23,000円+税

(税込 25,300円)

巻末の聖書地図は
フルカラーで、
12葉。



- ① 6 ペルシア帝国(前550~330年)
- ② 5 アッシリア帝国と新バビロニア帝国(前9~6世紀)
- ③ 10 イエス時代のエルサレム(後30年頃)部分

共通巻末付録：度量衡および通貨、
新約聖書における旧約聖書からの
引用箇所一覧表、旧約聖書 章・節
対照表、用語解説(143語)、聖書に
ついて、聖書地図(カラー12葉)

フィルマンシャー・アントニウス／酒井陽介 [編]

平和をもたらす者は幸い

上智大学神学講習会

7月1日刊行予定

宗教こそ人類の戦争と暴力、対立と分断の 第一原因なのか、それとも・・・

聖書にも散見される、土地や財産の奪い合いを目的とした戦争、聖絶、生贄、犠牲……。真の平和を心から希求する現代の信仰者は伝統宗教の中に平和と共存の根拠を探し出すことが出来るのか。真摯な問いに答えるべく編纂された論考集。

人間相互の関係性のうちに「調和、安寧、十全さ」という意味での「シャーローム」が実現するためには、神からもたらされる恵みの要素が根本的に必要であるという現実、私たちの目は開かれるのではあるまいか。そしてそのためには、「シャーローム」にかかわる一人ひとりが、神の恵みへと秩序づけられ、神の「シャーローム」と響き合っていることが求められるのではなからうか。そして畢竟、こうした一人ひとりの存在が神の「シャーローム」と響き合っていることこそが、この世界に真の「シャーローム」を実現していくための、泥臭い地道な道行きの第一歩なのだとと言えるのではないだろうか。(本文より)

主な目次

まえがき 酒井陽介

〈シャーローム〉と〈言葉〉の物語としてのヨセフ物語——旧約聖書における〈シャーローム〉の諸相

大西崇生

イスラーム教における平和とヒューマニズム フランシスコ・プルハスタント

競って善行を果たせ——現代スーフィズムにおける共生の理想と現実

丸山大介

教会は「平和のパン種」になれるのか——エキュメニカルな視点から

増田 健

あとがき フィルマンシャー・アントニウス



四六判・176頁・定価1,980円税込
本体1,800円+税 ISBN 978-4-911054-59-8 C0016



鈴木道也 [著] (日本基督教団 花巻教会牧師)

キリスト教書店大賞ノミネート中
説教での紹介、推奨、書評多数

違いがありつつ、ひとつ

試論「十全のイエス・キリスト」へ

6/20 重版出来! 2024年11月20日刊行



大貫 隆先生、推奨!

- 福音書研究に限らず、教理史、教義学も含めて現代神学全般(欧米・日本の両方にわたって)実によく勉強している。
- 論述が平穏かつ公平。先行研究からの引用は常に正確かつ肯定的で、自説の中へ統合する姿勢。無益に論争的などころがなく建設的。
- 文体は一般読者向けで分かりやすい。図は明快で読者の理解を大いに助ける。

YOBEL, Inc. 定価(本体2,800円+税)

A5判・452頁・3,080円(税込)
本体2,800円+税 ISBN978-4-911054-22-2 C0016

「いずれのみ真か？」ではなく、
「いずれもまた真」でもなく。

ひとつに結び合わされ、初めて見えてくる聖書の原風景!

聖書に生きる民によるキリスト教の歴史もまた、全体主義、排外主義の色合いを濃く帯びながら論争、分裂、騷擾そうじょうを繰り返してきた。「違いがありつつ、ひとつ」という第三の道があるのではないか——。現職の一牧師が岩手・花巻から発信する現代人のための希望に満ちた神学!

大貫 隆先生推奨!：論述が平穏かつ公平。先行研究からの引用は常に正確かつ肯定的で、自説の中へ統合する姿勢。無益に論争的などころがなく建設的。・文体は一般読者向けで分かりやすい。図は明快で読者の理解を大いに助ける。

[主な目次]

すいせんの言葉 小友 聡

第一部 違いがありつつ、ひとつ

～四福音書の相違と相互補完性

- 第1章 福音書に関する5つの疑問
- 第2章 四福音書の共通の土台、
四福音書の固有のキリスト像
- 第3章 マルコによる福音書のキリスト像
——生前—十字架のキリスト
- 第4章 マタイによる福音書のキリスト像
——十字架—復活のキリスト
- 第5章 ルカによる福音書のキリスト像
——復活—昇天のキリスト
- 第6章 共観福音書の小黙示録のキリスト像
——再臨のキリスト
- 第7章 ヨハネによる福音書のキリスト像
——再臨=想起・現前のキリスト

第8章 違いがありつつ、ひとつ

——四福音書の相違と相互補完性

第二部 「十全のイエス・キリスト」へ

——伝統的な聖餐論と開かれた聖餐論の相違と相互補完性

- 第1章 聖餐とは何か
- 第2章 現代の聖餐論議
——伝統的な聖餐論と開かれた聖餐論
- 第3章 「十全のイエス・キリスト」へ
- 第4章 今後の展望——内住のキリスト像索引

あとがき

著者紹介 鈴木道也(すずき・みちや)

1983年 京都府京都市生まれ。
2007年 北海道大学文学部卒業、2013年 東京神学大学院修士課程修了。
2013年より日本基督教団 花巻教会牧師(主任担任教師)。日本神学研究センター、東北伝道協会 会員。

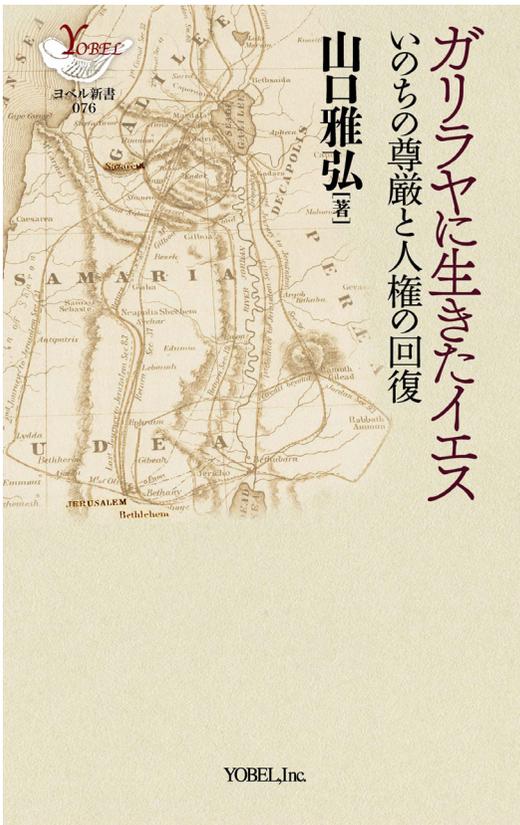


山口雅弘 [著] (日本キリスト教団 引退牧師)

3刷出来!

ガリラヤに生きたイエス いのちの尊厳と人権の回復

重版案内 8月10日刊行予定



“ガリラヤ”を抜きにしては イエスもキリスト教もない!



イエスが生まれ育ち、民と共に暮らし、「神の国運動」の場となった「ガリラヤ」、その地に焦点を当てて聖書を捉え直す渾身の「キリスト教解体新書」。〈歴史のイエス〉と〈信仰のキリスト〉の間にある乖離を明示してキリスト教最大の問題を乗り越え、イエスの生き方の核心を示す「いのちの尊厳と人権の回復」に肉薄する。

イエスの眼差しは、社会的・政治的・宗教的な権力支配の構造悪によって^{きみんか}難民化され、難民化される人々に向けられました。そしてガリラヤの人々の願いや抵抗の生き方は、神を信頼し自立的に生きる者の「弱者の武器」を用いる「非暴力」によるものでした。人々はイエスの福音を受け継ぎ、何事も「あきらめず」に希望を持って生きるように促されたのではないのでしょうか。(本文より)

まえがき	ラエルの伝統／「異邦人のガリラヤ」と言われる理由	に罪を犯さず
序章 イエスの生き方の核心は?	／ガリラヤの社会と支配構造	第五章 晒し柱——犠牲のシステム
第一章 「イエス」探求の前提	イエスの生と死／心身の「癒し」と「全人間的な解放」／志ん生の本音とパウロの呻き、そしてイエス、他	晒し柱の処刑について／十字架の「贖罪」／強者の論理と犠牲のシステム／晒し柱による死についての再考
第二章 「ガリラヤ」という歴史的な場	イエスと「ガリラヤ」／ガリラヤの特異性／北イス	第六章 宗教のジレンマとその克服
第三章 ガリラヤ農民イエス	農民・木工職人イエス／日常の風景／中庭を中心に	イエスの「誕生と死」、そして「復活物語」／「復活信仰」と女性たち／宗教のジレンマとその克服、他
第四章 旅に出るイエス——怒りと希望	放浪の旅立ち?／イエスの怒り／ヒューマンイズムの徹底化／イエスが示す「神の国」／共食と共生の実現	終章 弱さを絆に
	を求めて／パンの分かち合い／一切れのパンのため	主な参考文献表／あとがき

著者略歴：山口雅弘（やまぐち・まさひろ） 1948年札幌に生まれる。日本聖書神学校卒業。以後、日本キリスト教団諸教会の牧師を歴任。アメリカ・ケンブリッジ Episcopal Divinity School に留学（神学修士号取得）。単位互換制度によりハーバード大学神学校で学び、米国長老派研修施設（ニューヨーク）常駐神学教師、並びに諸教会の協力牧師。日本聖書神学校講師（新約学）。現在、日本キリスト教団引退牧師。著書：『イエス誕生の夜明け：ガリラヤの歴史と人々』、『よくわかる新約聖書の世界と歴史』（以上日本キリスト教団出版局）、『イエスの道につながって：教会暦による随想とメッセージ』（新教出版社）。編・著書：『聖餐の豊かさを求めて』（新教出版社）。翻訳書：M. ヘンゲル著『イエスは革命家であったか』（共訳、新教出版社）、L. ウィリアムソン著『現代聖書注解—マルコによる福音書』、P. パーキンス著『現代聖書注解—ペトロの手紙1・2、ヤコブの手紙、ユダの手紙』（以上日本キリスト教団出版局）、M. ディベリウス著、H. コンツェルマン改訂増補『教会書簡注解—第1・第2テモテ書、テトス書』（教文館）。

新書判・336頁・1,650円（税込）
1,500円＋税 ISBN978-4-909871-63-3 C0216

一麦出版社の新刊

◎ 6月26日発売

『カルヴィニズムの歴史と特徴』

ジョン・T・マクニール*著

高内義宣*訳

定価 15180 (本体13800 + 消費税) 円

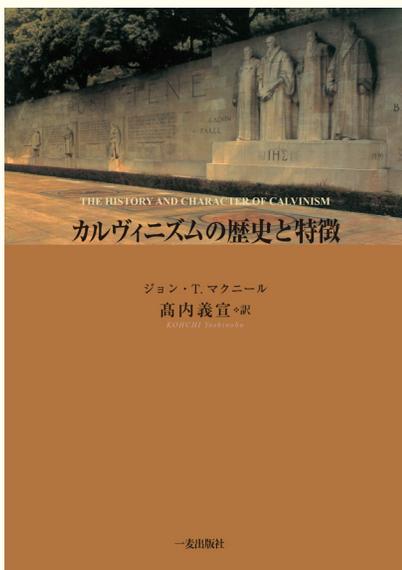
A5判・上製・函入・660頁

ISBN978-4-86325-168-7 C3016

カルヴァンがいなければ 近代の歴史は違っていた

カルヴィニズムが辿った歴史とその意味を
文献と資料によって鮮やかに描き出す

ツヴィングリの人生と著作およびチューリヒ市とドイツ語圏スイスの宗教改革、カルヴァンの人生と著作およびジュネーブ市とフランス語圏スイスの宗教改革、東西ヨーロッパとアメリカにおけるカルヴィニズムの発展と展開、分裂し再統合してゆく今日におけるカルヴィニズムまでを一巻で概説。



〈著者紹介〉

ジョン T. マクニール

1885年カナダ生まれ。カナダの教会史家。エディンバラ、オックスフォード、バーゼルで学んだ。1920年にシカゴ大学から博士号取得。1944年までシカゴ大学の教授を務めた。1951年にユニオン神学校オーバーン大学教会史教授。1975年死去。著書多数。

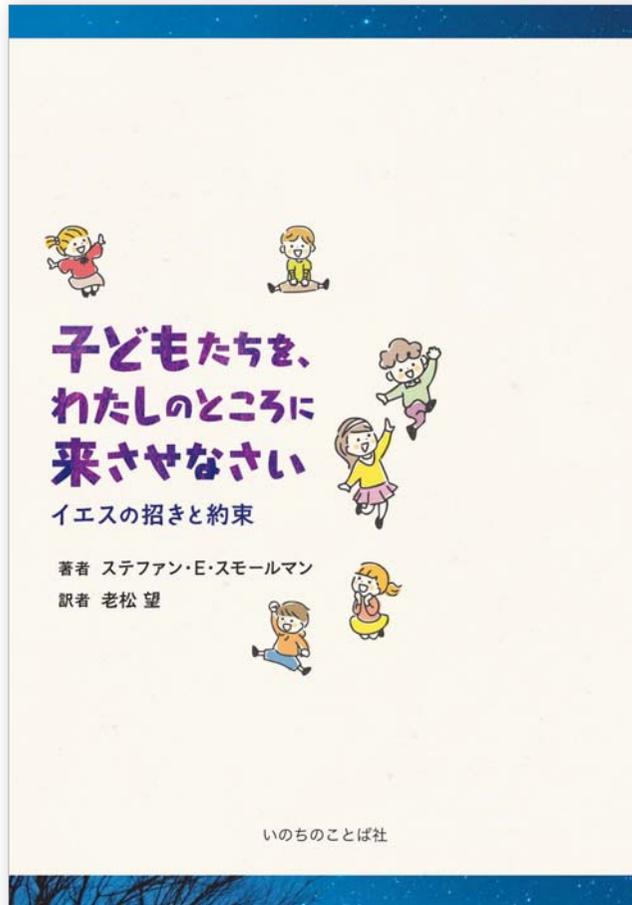
〈訳者紹介〉

高内義宣 (KOHCHI Yoshinobu)

1956年、高知県窪川町生まれ。1978年、関西大学卒業、神戸改革派神学校入学。1981年、神戸改革派神学校卒業。日本キリスト改革派丸亀伝道所に赴任。1983年、丸亀伝道所を辞し、アトランタのコロンビア神学校修士科に入学。1985年、コロンビア神学校卒業 (Th.M)。1985年末から北九州市小倉にて開拓伝道。2006年、愛知県の日本キリスト改革派津島教会に赴任。現在に至る。

共著 『キリスト教大辞典』いのちのことば社、2022年

訳書 サミュエル・ラザフォード著『ラザフォード信仰問答』神戸改革派神学校・ワークホーム聖恵、2015年



B6判 46頁 定価770円(本体700円+税)
ISBN978-4-264-04599-1 C0016
いのちのことば社卸コード 07050

子どもたちを、わたしの ところに来させなさい イエスの招きと約束

ステファン・E・スモールマン 著
老松 望 訳

子どもたちに対する取り組みについて、神が何を語られたかに、まず耳を傾けよう。イエスに従いたいという願いを子どもたちに教え込みたいと思いつつも、自分たちはその務めを果たすのに不十分であると深く自覚している親たちへ。

ステファン・E・スモールマン (Stephen E. Smallman)

40年間、長老教会を牧会した後、都市伝道や宣教団体の働きに従事。また、カペナント神学校やウェストミンスター神学校の非常勤講師としても奉仕した。多くの著作を残し、2023年に召される。

老松 望 (おいまつ・のぞむ)

関西大学社会学部卒。KKG (キリスト者学生会) の Graduate Assistant、非常勤主事を経て、聖書宣教会入会。卒業後、KKG の関西地区、東北地区の主事として8年間奉仕。現在、大阪聖書学院教師。